

けんぱくものしりシート

い さわ じょう 胆 沢 城



い さわ じょう あと
【胆沢城跡】 (奥州市・国指定史跡) 写真提供 一般財団法人奥州市文化振興財団 奥州市埋蔵文化財調査センター



「胆沢城」は江戸時代に
お殿様が住んでいたよ
なお城だったのかな？



名前に城と
ついていますが、
江戸時代のお城
とは全く異なります。



どのような建物
だったのですか？



へいあん じ だい ねん はじ にほん しゅ と みやこ へいあんきょう いま きょう
平安時代 (794~1185年) の初めころ、日本の首都「都」は平安京 (今の京
と 都) であり、天皇を中心に貴族たちが、唐 (当時の中国) の法律「律令」を参考
てんのう ちゅうしん きぞく とう とう じ ちゅうごく ほうりつ りつりょう さんこう
して国を治めていました (ここでは中央政権と呼びます)。中央政権は東北地方を文
くにおさ ちゅうおうせいけん よ ちゅうおうせいけん とうほくちほう ぶん
化の遅れている地域と考え、そこに住む人々を「エミシ」と呼んでいました。(実際
か おく ちいき かんが す ひとひと よ
には、都を除く各地方の文化に大きな差はなかったようです。) 中央政権は支配する土
みやこ のぞ かくちほう ぶんか おおきな ちゅうおうせいけん しはい と
地を拡大するため、エミシの住む東北地方に何度も戦いを仕かけました。

げんざい いわて けんなん ぶ す
現在の岩手県南部に住んでいたエミシは、「アテルイ」をリーダ
ちゅうおうせいけん たたか
ーに中央政権と戦いました。しかし、アテルイ軍をやぶった
ちゅうおうせいけん せい いたいしやうぐん さかのうえの たむら まる ねん げんざい
中央政権の征夷大將軍「坂上田村麻呂」が 802年に現在の
おうしゅうし いさわじょう た
奥州市に胆沢城を建てはじめると、エミシ側は負けを認め、
しゅうへん ちいき ちゅうおうせいけん しはい か はい
周辺の地域は中央政権の支配下に入ることとなりました。

い さわ じょう
胆沢城はそれまでエミシが住んでいた土地を管理するための
くに やくしよ とち かんり
国の役所として、また、エミシとの戦いに備えるための施設として造られたのです。





いさわじょう つく とうじ ようす しょうかい
胆沢城が造られた当時の様子をご紹介します。

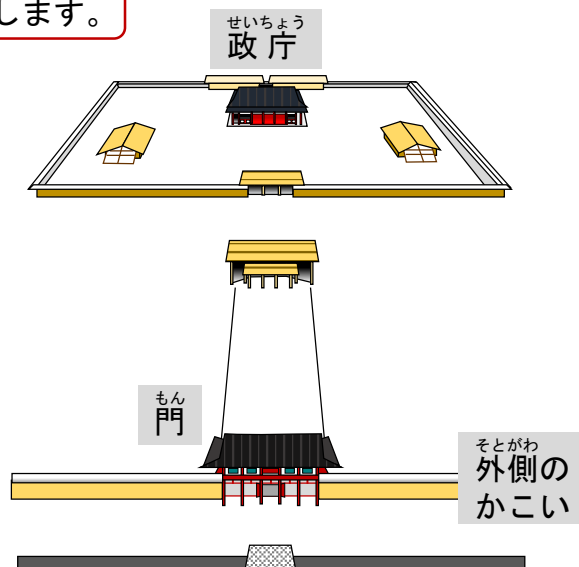
■ 現在の関東地方から約4千人が胆沢城
近くに移り住み、胆沢城で必要なものを
作ったり、仕事をしたりするようになり
ました。

■ 胆沢城には毎日約400~700人の兵士
が勤め、エミシの反乱に備えました。

■ 政庁では中央政権に従うことにし
たエミシをもてなしたり、仏教の行事
を行ったりしました。

■ 胆沢城周辺の地域が、磐井郡・江
刺郡・胆沢郡に分けられ、人々の出入り
が管理されるようになりました。

■ 中央政権は住民に「租庸調」とい
う税を納めさせるなど、エミシたちの
住んでいた土地でも律令にもとづく
支配を行おうとしました。



それまで、だれに支配されることもなく豊かな自然とともにくらしていたエミシ
にとって、生活を制限されることはとても大変なことでした。



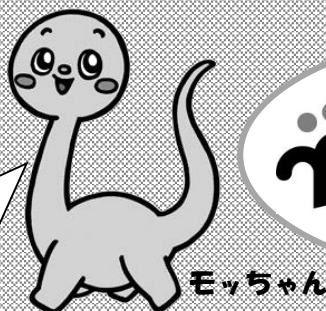
胆沢城ができたことで、エミシの生活はすっかり変わってしまったのですね。



胆沢城は約150年もの間、その役目を果たし続けました。「胆沢城跡」は歴史
上の価値が高い遺跡として、国の史跡に指定されています。

参考にした本 『いわて未来への遺産 古代・中世を歩く 奈良~安土桃山時代』 岩手日報社 2001年 他

らいげつ がつ
来月(10月)の
けんぱくものしりシートは
みんぞく
民俗-21だよ!
おたのしみに!



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>

※「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。最新情報ではございませんので、あらかじめご了承下さい。
※「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。